

事業報告

令和6年度 第3回 大分県公立図書館等職員研修会

日 時	令和6年9月17日(火) 9:50~15:10
会 場	大分県立図書館 1階 第2・3研修室
参加形態	①集合型 ②オンデマンド参加(後日動画限定配信)
参加者	公立図書館等職員 83名 (①16名 ②68名)(①②重複参加者あり)

<研修趣旨>

公立図書館等の職員に対し、最新の図書館情勢に対応したテーマについて、理論とスキルを学ぶことにより、県内全体での図書館職員のスキルアップを図る。

<研修内容>

【午前】 講義・グループワーク

「ICTを活用した読書支援～読書バリアフリーの多様な世界」

講師 学びプラネット合同会社 代表社員 平林 ルミ 氏

講義内容

読み書きの困難さ

合理的配慮とは

ICTによる読書サポート事例

教科書へのアクセス

読書バリアフリー

【午後】 演習「ICTを活用した読書支援～読書バリアフリーの多様な世界」

講師 学びプラネット合同会社 代表社員 平林 ルミ 氏

講義内容

アクセシビリティ／ユーザー補助を知る

ボイスオブディジー5を使ってみよう

配布資料(PDF形式)をブックで見てみよう

＜当日の様子（写真）＞



＜参加者感想＞

- ◊今まで読書が苦手な子どもたちにはよみきかせくらいしかできることを知らなかったが、いろんな技術の発達で提供できるサポートの幅がひろがっていることを知れて良かった。
- ◊実際にアプリを体験できてよかった。いろんな道具が販売されており、読み書き困難な方が少しでも本の世界に入りやすくなるよう、図書館でできることを1つずつできるようにしたいと思った。
- ◊デイジーを初めて実際に使ったので良い機会になった。特別な機器がなくてもKindleや読み上げ機能を活用することで、本にアクセスしやすくなるとわかった。
- ◊ICTはとっつきにくいイメージがあった。今回の研修で、こんな機能があるのか、ということを知ることができ、実際に触ってみることが大切だと痛感した。
- ◊バリアとは何を指すのかや、合理的配慮など。現場での対応に役立つ研修内容だった。
- ◊コピーサービスの用紙の色や、バリアフリー図書や拡大読書器の案内など、すぐに実行できる部分は対応していきたい。
- ◊タブレットを通して、本を読む楽しさをより多くの方に知っていただけるためには、自分が実際にアプリを使って見るなどの必要性を感じた。
- ◊ICTを活用することで皆様の世界が広がっていくことができやすいことを今回学んだ。職場で共通理解し、誰にでもやさしい利用しやすい図書室になるようにしていきたい。